

2009年5月8日  
財団法人イオン環境財団

## 万里の長城、植樹本数が累計100万本に 「万里の長城植樹」活動実施について

財団法人イオン環境財団（理事長：岡田卓也 イオン(株)名誉会長相談役）では、5月16日（土）北京市人民政府とともに北京市延慶県八達嶺（えんけいけんはったつれい）において、植樹累計100万本記念「万里の長城植樹」を実施いたしますのでご案内申し上げます。

「万里の長城植樹」活動は、環境問題に国境はないといわれる中、1995年北京市で開催された「第2回日中環境問題国際シンポジウム（※）」において、数百年にわたる森林伐採で消滅した万里の長城周辺の森を再び蘇らせようという(財)イオングループ環境財団（現(財)イオン環境財団）からの提案を機に、1998年から開始したものです。

これまでの万里の長城植樹活動では、(財)イオン環境財団と北京市人民政府主催のもと、日中ボランティアの方々が中心となり、1998年から2000年にかけて約39万本、2003年から2005年にかけて約8万本を植樹しました。

さらに、喫緊の課題として地球温暖化対策への必要性がさらに高まる中、日中国交正常化35周年を契機に、2007年から育樹や補植を含めた5ヵ年計画の植樹活動を開始しております。1998年の植樹活動開始以来、累計約80万本、延べ約12,100名の日中ボランティアの方々が参加しています。

この度の植樹活動は、5ヵ年計画の3年目となり、日中ボランティア約2,500名の方々とともに、モウコナラやアブラマツ等の植種を合計約2万5千本植樹する予定で、本年度内に万里の長城植樹活動は累計本数100万本を達成します。

イオンでは、水と緑を守ることの重要性を認識のもと、地球温暖化にブレーキをかけるべく、これからもアジアの皆さまとともに木を植えてまいります。

### ※「第2回日中環境問題シンポジウム」について

このシンポジウムは、(財)イオングループ環境財団（現(財)イオン環境財団）、(財)環境情報普及センター、中国環境科学学会、中国社会科学院日本法研究センターが主催し、日中両国が直面する環境問題について、両国の専門家による情報交換、意見交換を通じ、環境保全に関する理論、技術、政策研究促進のため、1995年に北京市の人民大会堂で開催されたものです。

### 記

1. 開催日時： 5月16日（土）9：00～11：00
2. 植樹場所： 北京市延慶県八達嶺 万里の長城付近
3. 樹種： モウコナラ、アブラマツ、コノテガシワ、イタヤカエデ 等
4. 主催： 北京市人民政府、(財)イオン環境財団
5. 主な参加者： 北京市人民政府 市長 郭金龍(かく きんりゅう)氏  
(予定) (財)イオン環境財団 理事長 岡田 卓也(おかだ たくや)

以上

ご参考までに

#### 【財団法人イオン環境財団について】

財団法人イオン環境財団は、地球環境を守るためのさまざまな活動を自ら展開するとともに、同じ志を持つ団体への支援・助成の実施を目的として1991年に設立されました。

水と緑を守っていく活動として、イオンではこれまでに日本国内をはじめ、タイ、マレーシア、ケニア、ラオス等で地域の皆さまとともに、累計約881万本の植樹を実施してまいりました。

#### 【2008年4月に実施した植樹活動の様子】

